

# RESAS

を分析してみよう

長野県  
小諸市

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

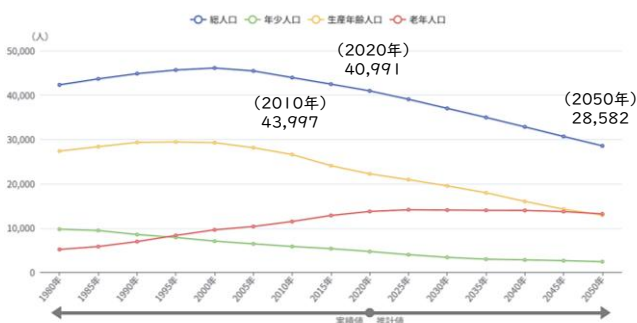
## 人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



人口推移グラフ  
長野県小諸市



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づき実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、高岡村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

\*人口マップ→人口構成分析→人口推移

## 年齢別人口推移

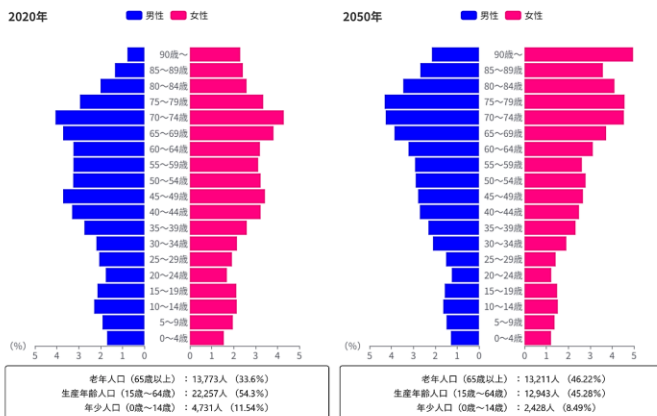
2020年の人口は総人口40,991人。10年前（2010年）の43,997人と比較すると6.8%減少しているが、2050年にかけてさらに減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は横ばい傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

## 人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の33.6%から2050年には46.22%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の54.3%から45.28%まで減少する見込みである。

人口ピラミッド  
長野県小諸市



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、高岡村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

\*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

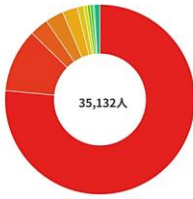
# 人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 長野県 小諸市  
昼間人口：35,132人  
夜間人口：36,260人  
(昼夜間人口比率：96.89%)

昼間人口

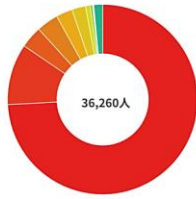
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



- 1位 長野市 26,880人 (76.51%)
- 2位 長野県佐久市 3,794人 (10.80%)
- 3位 長野県東御市 1,111人 (3.16%)
- 4位 長野県上田市 1,086人 (3.09%)
- 5位 長野県飯綱町 903人 (2.57%)
- 6位 長野県軽井沢町 383人 (1.09%)
- 7位 長野県立科町 216人 (0.61%)
- 8位 長野県佐久穂町 177人 (0.50%)
- 9位 長野県長野市 170人 (0.48%)
- 10位 長野県千曲市 75人 (0.21%)
- その他 337人 (0.96%)

夜間人口

(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 長野市 26,880人 (74.13%)
- 2位 長野県佐久市 3,774人 (10.41%)
- 3位 長野県上田市 1,347人 (3.71%)
- 4位 長野県軽井沢町 1,346人 (3.71%)
- 5位 長野県東御市 1,011人 (2.79%)
- 6位 長野県飯綱町 849人 (2.34%)
- 7位 長野県長野市 292人 (0.81%)
- 8位 長野県立科町 130人 (0.36%)
- 9位 長野県千曲市 46人 (0.13%)
- 10位 長野県佐久穂町 43人 (0.12%)
- その他 542人 (1.49%)

【出典】  
総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が従来・通学している従来地・通学地における15歳以上の人口であり、従来地・通学地集計の結果を用いて算出された人口をいう。

算出方法は「地域に常住する人口」-「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」+「その他地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」  
テレワーク勤務に関しては、定義上ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従来地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従来地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

夜間勤務の者、夜間の学校に通っている者も位置情報上昼間従来者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び幡豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、鳥根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

\*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

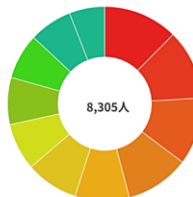
## 流入・流出者数（2020年）

小諸市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流出超過数が1,104人と市外への流出者が多い地域であることがわかる。また、流入者数、流出者数共に45～49歳がもっとも多くなっている。

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

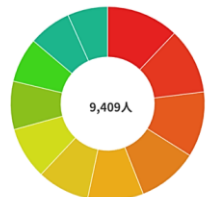
2020年 長野県 小諸市  
通勤者・通学者で見る  
総数  
流入者数：8,305人  
流出者数：9,409人  
(流出超過数：1,104人)

流入者数



- 1位 45～49歳 1,029人 (12.39%)
- 2位 50～54歳 969人 (11.67%)
- 3位 40～44歳 932人 (11.22%)
- 4位 55～59歳 884人 (10.64%)
- 5位 35～39歳 749人 (9.02%)
- 6位 15～19歳 725人 (8.73%)
- 7位 30～34歳 653人 (7.86%)
- 8位 60～64歳 650人 (7.83%)
- 9位 65歳以上 629人 (7.57%)
- 10位 25～29歳 594人 (7.15%)
- その他 491人 (5.91%)

流出者数



- 1位 45～49歳 1,134人 (12.05%)
- 2位 40～44歳 1,034人 (10.99%)
- 3位 50～54歳 1,026人 (10.90%)
- 4位 55～59歳 948人 (10.08%)
- 5位 35～39歳 874人 (9.29%)
- 6位 15～19歳 818人 (8.69%)
- 7位 65歳以上 818人 (8.69%)
- 8位 60～64歳 757人 (8.05%)
- 9位 30～34歳 700人 (7.44%)
- 10位 25～29歳 670人 (7.12%)
- その他 630人 (6.70%)

【出典】  
総務省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者をいう。ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従来地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従来地とするため、通勤者には含まれない。

通学者・通学者：この画面においては、15歳未満も含む通勤者（自宅以外の場所で就業する者）と15歳未満も含む通学者（主に高等学校や専門学校、各種学校に通学する者）の合計を指す。ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従来地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従来地とするため、通勤者には含まれない。

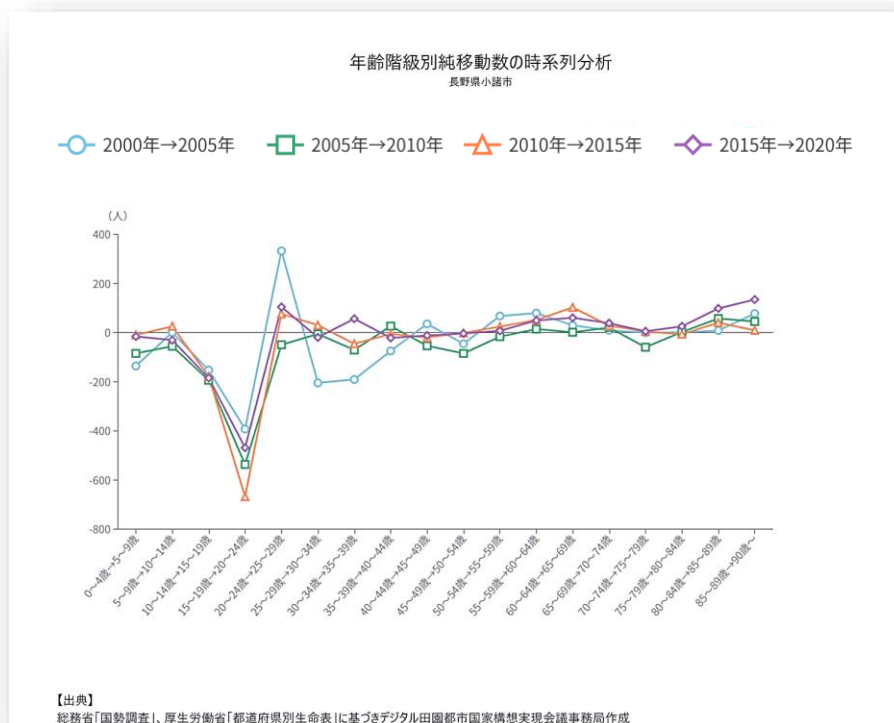
この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数は、特別区間および政令指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていない。

「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び幡豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、鳥根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

\*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

## 年齢階級別純移動数時系列分析

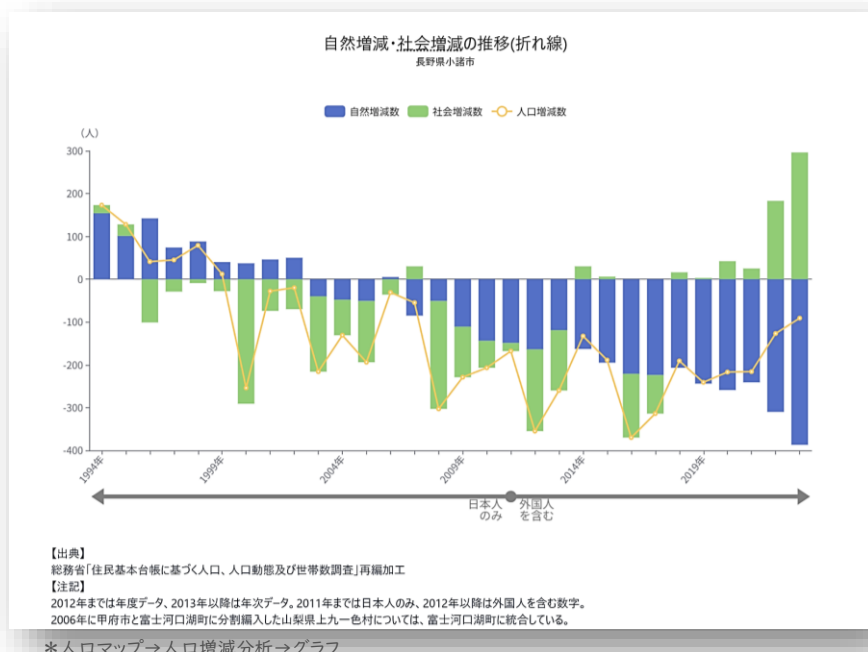
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時（15～19歳→20～24歳）に人口が流出し、就職時（20～24歳→25～29歳）に人口が流入する。また、中高年齢層にかけて移動数が減少傾向にあり、定住傾向が強い地域であると考えられる。



\*人口マップ→社会増減分析→人口移動

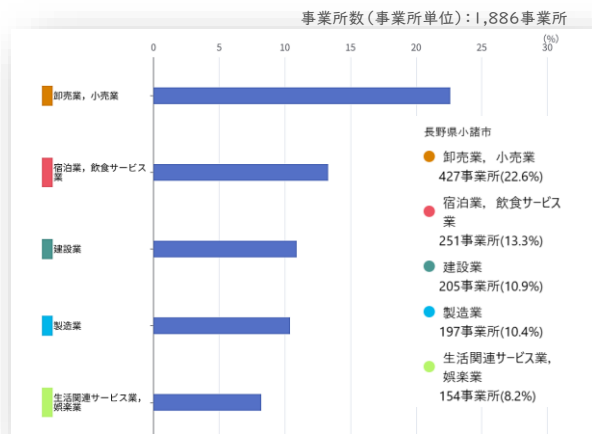
## 自然増減・社会増減の推移

自然増減数（出生数から死亡数を引いた値）と社会増減数（転入者数から転出者数を差し引いた数値）の推移を示したグラフである。近年、自然減の傾向が強いが、2020年以降、小諸市の社会増が伸びている理由として、主にテレワーク普及での地方移住等の加速が要因として考えられる。

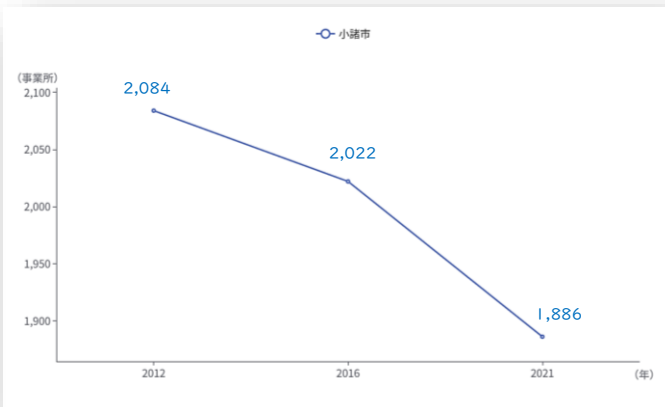


\*人口マップ→人口増減分析→グラフ

# 産業構造



※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)



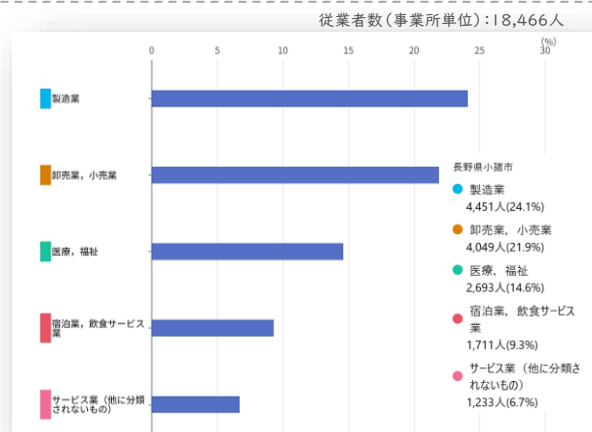
※産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

## 事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

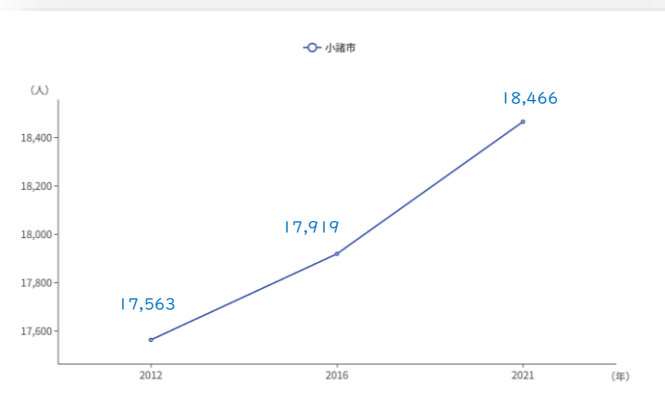
業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の427事業所で、全体の22.6%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の251事業所の13.3%が続く。

## 事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。  
2021年は1,886事業所であり、5年前の2016年は2,022事業所だったので、比較すると6.7%減少している。



※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)



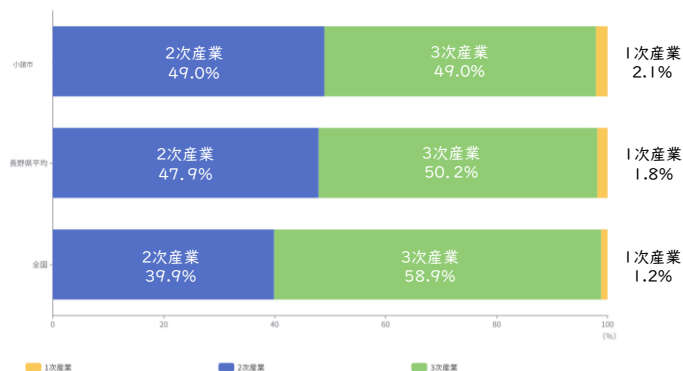
※産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

## 従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の4,451人で、全体の24.1%を占めている。その後「卸売業、小売業」の4,049人の21.9%が続く。

## 従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移をみる。  
2021年は18,466人、5年前の2016年は17,919人だったので、比較すると3.1%増加している。また、2012年と比較すると5.1%増加している。



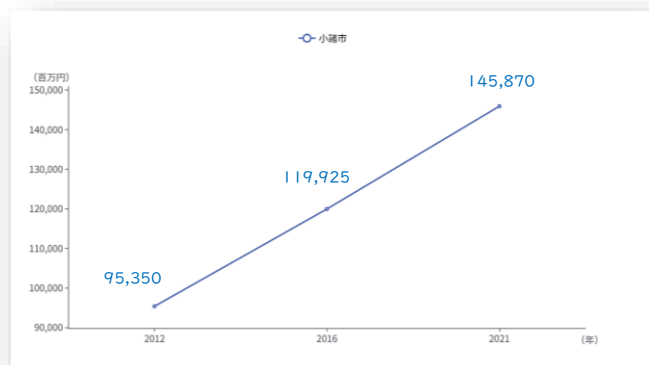
## 地域内産業の構成割合 (2018年)

小諸市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および長野県と比較したグラフである。2次産業の割合が49.0%と全国および長野県平均に比べて高い。一方、3次産業の割合が49.0%であり、全国および長野県平均と比べて低い。

※1次産業・・・農業、林業、漁業など  
※2次産業・・・製造業、建設業、工業など  
※3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、  
外食産業・情報通信産業など

※地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

# 小売業・卸売業



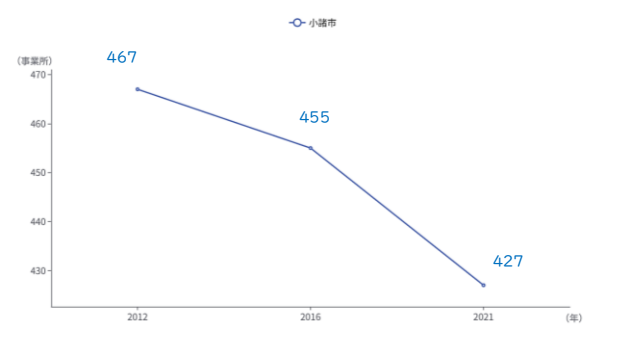
\*産業構造マップ→産業構造→推移

## 売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は145,870百万円である。9年前の2012年と比較すると95,350百万円なので、52.9%増である。

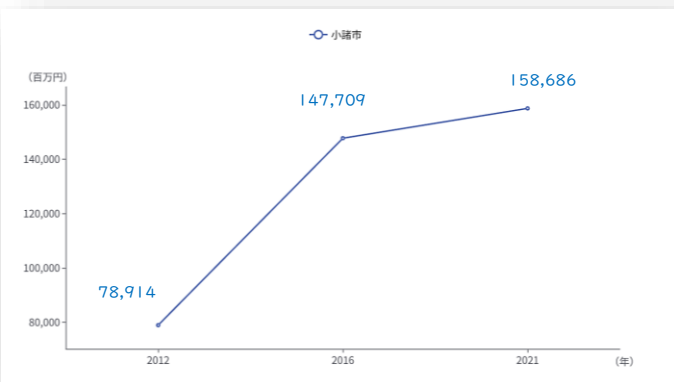
## 事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は427事業所、2016年は455事業所であり、2016年と比較すると、6.2%減となっている。



\*産業構造マップ→産業構造→推移

# 製造業



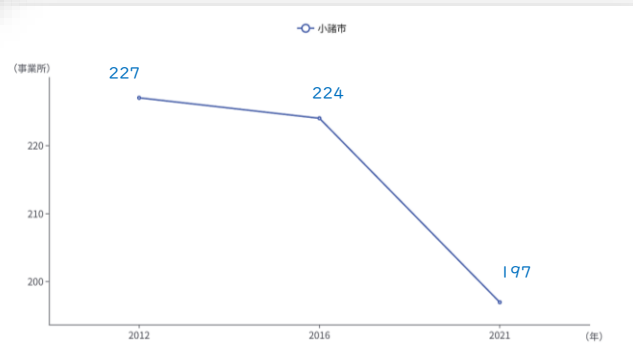
\*産業構造マップ→産業構造→推移

## 売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、158,686百万円である。9年前の2012年と比較すると78,914百万円なので、101.1%増である。

## 事業所数 (製造業) の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は197事業所、2016年は224事業所であり、2016年と比較すると、12.1%減となっている。

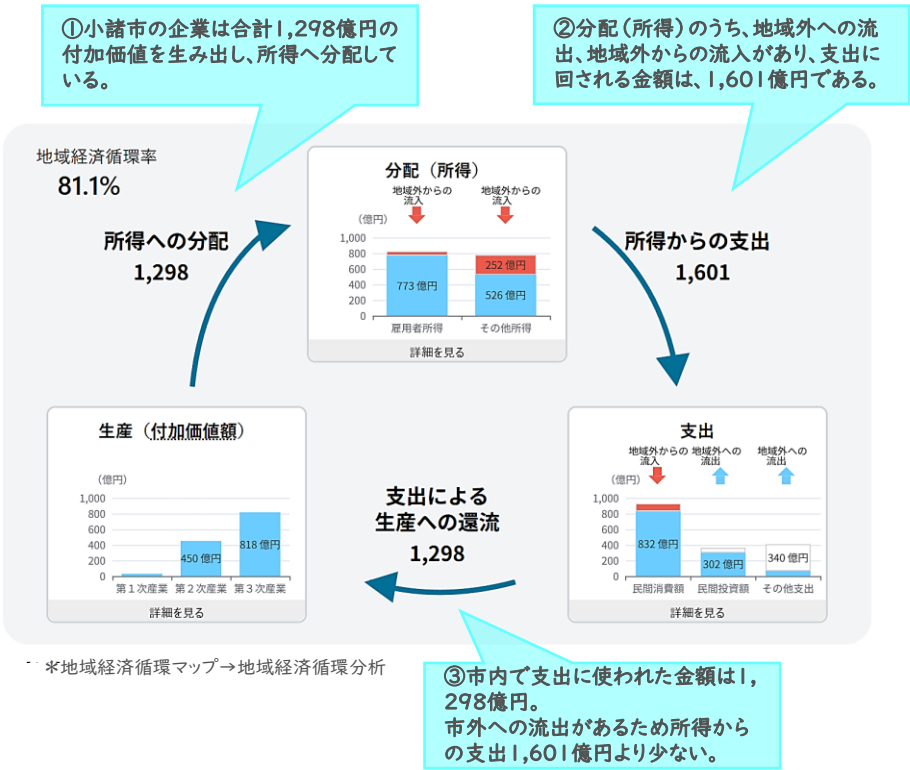


\*産業構造マップ→産業構造→推移

# 地域経済循環

## 地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



## 付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

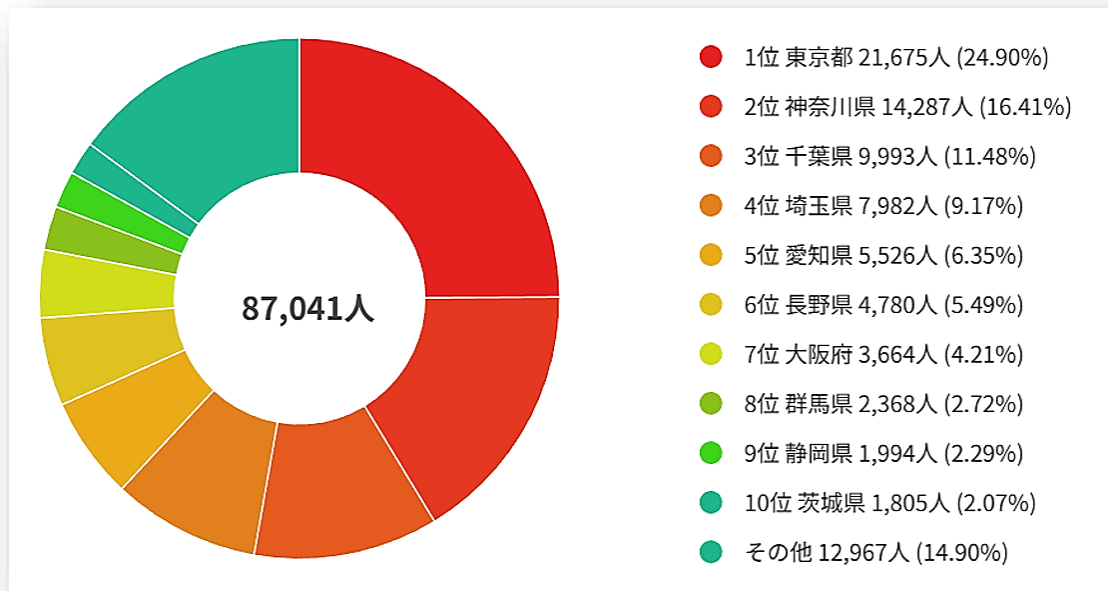
X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。  
付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。小諸市では、「製造業」の付加価値額がもっとも大きく、「建設業」、「学术研究、専門・技術サービス業」の順に続く。



※地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

## 居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。東京都が24.90%と最も多く、神奈川県が16.41%、千葉県が11.48%が続く。



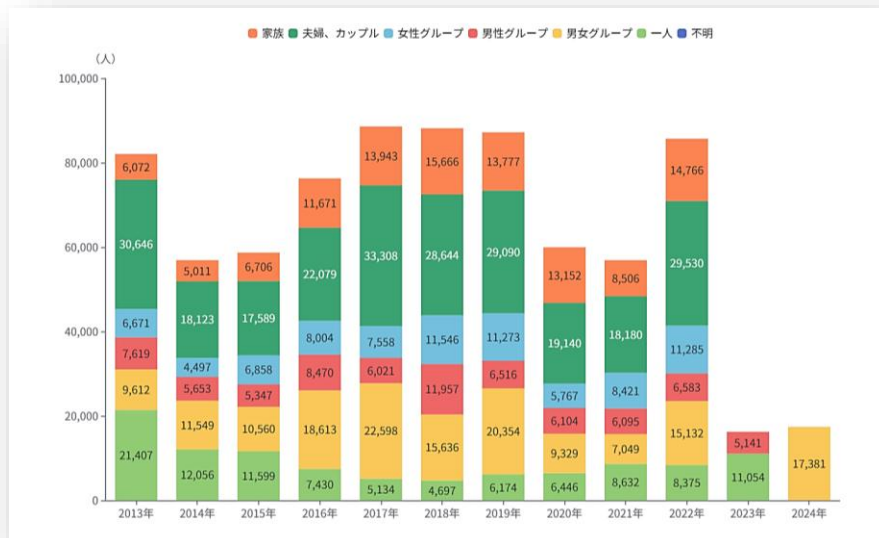
\*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

## 属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2022年では、もっとも多いのは、「夫婦、カップル」の29,530人、その後、「男女グループ」の15,132人、「家族」の14,766人と続く。

※2023年、2024年は、宿泊者数が設定期間中に一定以下のため、「データ無し」としていることから2022年にて説明する。



\*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：小諸商工会議所

〒384-0025 長野県小諸市相生町3-3-12

TEL: 0267-22-3355 FAX: 0267-23-9030

URL: <https://www.kcci.komoro.org/>

